

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 1/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

世界各地の〈仮面〉に共通する性質を、〈異界〉との関わり、〈自分の顔〉との関わりという論点から考察した文章。要旨は、昨年度と比べてつかみやすかったであろう。設問数は、昨年度同様、全体で五つであった。例年通り、設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	吉田憲司「仮面と身体」の一節
頻出度合 ・的中等	入試では稀に出題される著者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約3650字。昨年より約250字増。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	文化論	(一)	記述	やや易	傍線部内容説明問題。傍線部の「その意味で」に留意し、傍線部前後の議論の進め方と対応させて説明する。
		(二)	記述	標準	傍線部内容説明問題。かつての神事における〈仮面による憑依〉という信念が、現代では希薄化しているという「歴史的变化」を踏まえて考える。
		(三)	記述	やや難	傍線部内容説明問題。個人にとっての「顔」のあり方が、「仮面」をつけることでどのように変化するのかを考える。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明問題。傍線部で述べられている、仮面と『異界』との関係、および「自分自身(の顔)」との関係を確認したうえで、第二段落で論じられていた〈人間の根源的な普遍性〉という論点ともつなげて説明する。
		(五)	記述	標準	9年連続で、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。
答案に書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・文科) 2/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『沙石集』(無住)
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1260字。昨年より約320字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	説話	(一)			現代語訳。 現代語訳。 現代語訳。 現代語訳 (「何れも」の中身がわかるように訳す)。 理由説明 (直前の内容に注目する)。 現代語訳。 内容説明 (「心」を具体的に説明する)。
		ア	記述	やや易	
		イ	記述	標準	
		ウ	記述	やや易	
		(二)	記述	標準	
第二問 (理科)	説話	(三)	記述	標準	
		(四)	記述	標準	
		(五)	記述	標準	
		(一)			現代語訳。 現代語訳。 現代語訳。 理由説明 (直前の内容に注目する)。 内容説明 (「心」を具体的に説明する)。
		ア	記述	やや易	
イ	記述	標準			
ウ	記述	やや易			
(二)	記述	標準			
		(三)	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。解答を簡潔にまとめる練習も必要。また、和歌の学習もしておくこと。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・文科) 3/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であり、今年度は昨年度同様論説文であった。設問数については昨年度同様に枝問を含めて文科6題、理科5題であった。また設問に関わる部分での送り仮名の省略は昨年度は1箇所であったが今年度は4箇所であった。例年通り答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	『貞観政要』
頻出度合 ・的中等	頻出。ただし当該箇所は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 173字。昨年は193字 (昨年より20字減)。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	論説	(一)			
		b	記述	やや易	現代語訳。「美」に注意する。
		c	記述	易	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		d	記述	やや易	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		(二)	記述	やや易	現代語訳。「爾」の内容、「猶」「可以～」に注意する。
		(三)	記述	やや難	内容説明。何曾の発言を的確にまとめる。
		(四)	記述	標準	内容説明。反語表現に注意し、「顛」「不扶」の表す内容を的確に捉える。
第三問 (理科)	論説	(一)			
		b	記述	やや易	現代語訳。「美」に注意する。
		c	記述	易	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		d	記述	やや易	現代語訳。文脈を的確に押さえる。
		(二)	記述	やや易	現代語訳。「爾」の内容、「猶」「可以～」に注意する。
		(三)	記述	標準	内容説明。反語表現に注意し、「顛」「不扶」の表す内容を的確に捉える。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 4/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

評論、随筆、児童文学などでも知られる詩人・長田弘によるエッセイからの出題。芸術家や文学者の随筆が使われるという傾向は、例年どおりである。文章そのものは一見すると平易だが、傍線部を的確な言葉で説明することは容易ではなく、解答に手間取った受験生も多かったと思われる。

<本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	長田弘『詩人であること』(1983年 岩波書店、1997年 岩波同時代ライブラリー) より。
頻出度合・的中等	入試では頻出の筆者である。
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 約2050字。昨年より約570字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	やや難	傍線部内容説明。具体的な経験と関わらない抽象的な言葉であるということと、傍線部直前の内容を説明するが、「錠剤」のニュアンスを出すことが難しい。
		(二)	記述	やや難	傍線部内容説明。傍線部に至るまでと、本文後半の〈言葉を信じるのではなく疑う〉といった内容を踏まえ、「言葉にたいする」「自律」について説明する。
		(三)	記述	やや難	傍線部内容説明。『公共』の言葉、『全体』の意見と「合言葉」について説明し、さらに傍線部のあり方が差異を無視する態度につながることも説明したい。
		(四)	記述	標準	傍線部内容説明。本文全体の趣旨を踏まえたうえで、言葉を通じた「差異」の発見が「他者」との出会いにつながるということを説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを含むさまざまなタイプの文章に積極的にふれ、高度な読解力を身につけること。出題者の要求をしっかりと把握し、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。